

26 9 1

平成26(2014)年9月1日発行
広報あつぎ 第1190号

ネットは 厚木市 検索
www.city.atsugi.kanagawa.jp

広報

あつぎ

9月9日は救急の日

命を救う第一歩は、
応急手当て。みんな
で協力し合い、大切
な命を守りましょう (詳細は5面)



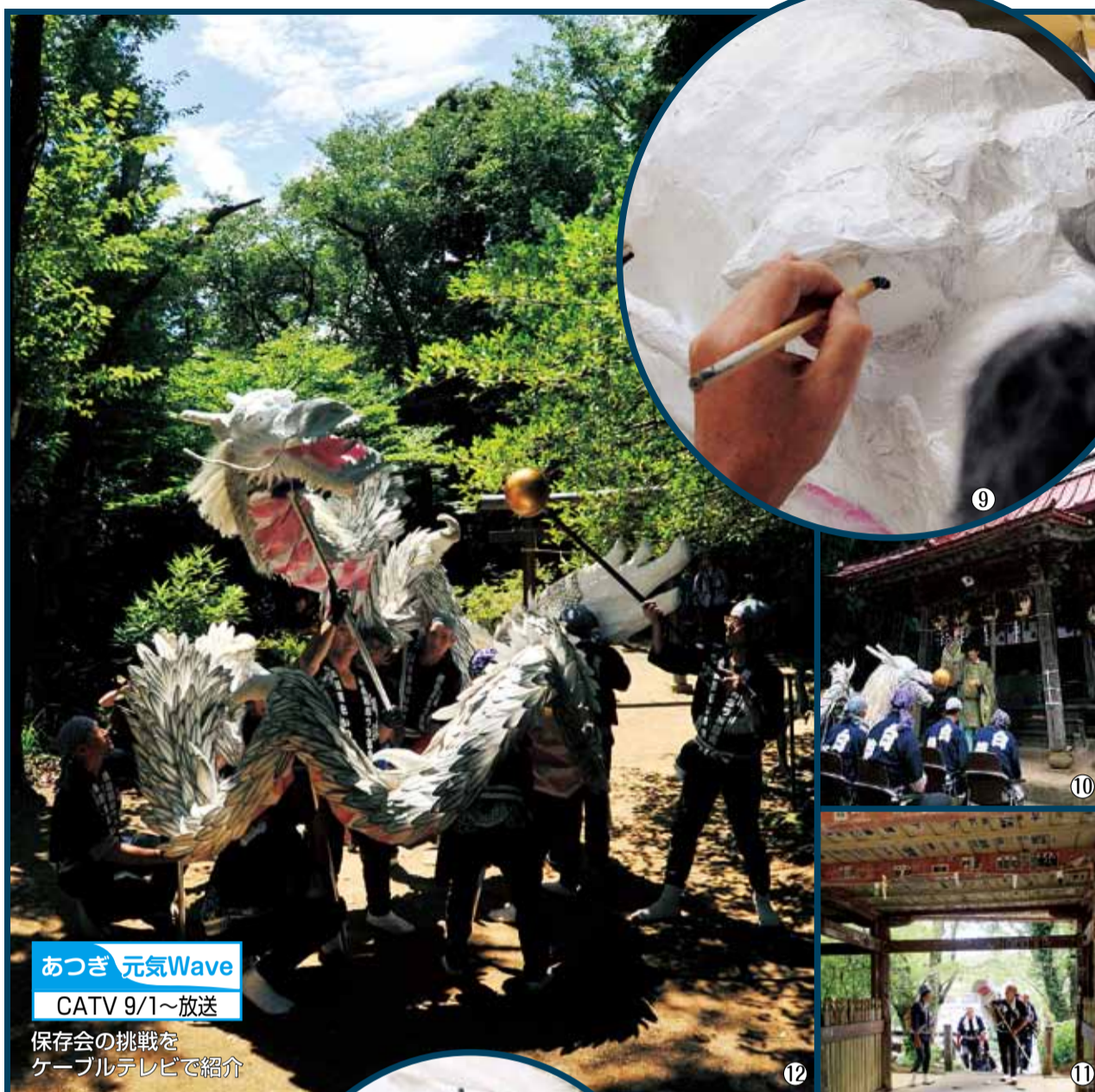
編集・発行／厚木市政策部広報課
〒243-8511 神奈川県厚木市中町3-17-17
TEL.046-223-1511(代) FAX.046-223-9951

昇龍 白山



担ぎ手が腰を沈めた瞬間、
白い龍が躍動した。頭から尾
までをしなやかにうねらせ、
澄み渡る空目掛けて舞った。
太鼓や笛の音が鳴り響く飯
山白山山頂の白山神社境内。
8月3日、焼け付くような日
差しの中「飯山白龍の舞い保
存会」のメンバーが舞を奉納
した。保存会にとって初の試
みであり念願だった。
平成13年に誕生して以来、
飯山の四季の祭りを彩ってき
た白龍。メンバーは何を思い
ながら、山頂まで龍を担ぎ
舞ったのか。5代目となる新
白龍が生まれ、「昇龍の日」
を迎えるまでの日々を追った。
《2・3面に続く》

目次	2・3面 雨乞いの舞 天高く	4面 子ども・子育て支援新制度	5面 救命の鍵 応急手当て	6～9面 特集 人をつなぐ農業	10・11面 タウンガイド
こちらから	この夏、舞を奉納しようと、白山神社を目指した「飯山白龍の舞い保存会」の挑戦を紹介。	子育てしやすく働きやすい社会を目指し、平成27年4月に始まる新制度をお知らせします。	応急手当ての大切さと、地域住民による救命活動組織「市民救命サポート隊」を紹介。	市民が身近に触れられる厚木市の農業。人と人をつなぐ都市農業の魅力を紹介します。	講座・催し・募集・子育てなど、暮らしに役立つ便利な情報が満載。



あつぎ 元気Wave
CATV 9/1~放送
保存会の挑戦を
ケーブルテレビで紹介



10 白龍太鼓の演奏がメンバーを勇気づけた11白山神社手前の急な坂道は、歯を食い縛って登った12休憩では笑顔で談笑13滑りやすいところを注意し合いながら歩を進めた14龍蔵神社の例大祭。迫力ある白龍の舞に歓声が上がった15白山の展望台から相模平野を一望



7桜の化身である白龍の腹部はピンクに着色。紙を折り返すアイデアは漆谷さん(左)が発案した8本番直前、完成した白龍で自動車のライトを頼りに舞を練習9入魂の儀では、メンバー一人一人が筆で目入れをした10入魂の儀は龍蔵神社の宮司により執り行われた11飯山観音の仁王門を抜け山登りがスタート12真夏の強い日浴び、白山神社の境内でとくろを巻く白龍

幽玄な龍が誕生

特にこだわりを持って制作したのは頭部だ。「すみと幽玄さを併せ持つ白龍」を目指した。4代目は紙粘土を主な素材としていたが、今回は発砲スチ

白龍と共に白山へ

8月3日、白山は快晴に恵まれ、連日の真夏日でこの日も30度を超えた。早朝、白龍は庫裡橋から程近い龍蔵神社に運び込まれ、神社の総代らの立ち会いの下、入魂の儀が執り行われた。白山登頂に参加するのは、助っ人の東京工芸大学の学生を含め総勢16人。舞に彩りを添える白龍太鼓のメンバー4人も太鼓などを担いで山路を共にした。一団は、飯山観音の観音堂で行程の安全を祈願し山へと分け入った。

緑深い葉から木漏れ日が降り注ぐ山道。20日の白龍を1人掛かりで担ぎ、一歩一歩踏み締めるように登り始めた。軽量化したとはいえ、登り坂では肩や足に重みがのしかかる。見る見るうちに額から大粒の汗が流れた。最高



1粗彫りした頭部を手に新白龍の構想を語る小島会長2制作が間に合わず2代目白龍で出演したイベント。子どもたちが目を輝かせた3ろうこの数は4千枚以上4主に頭部の作製を担当した井川さん5平日の夜にも集まり制作を進めた6幽玄な頭は小島会長がデザイン

前代未聞の挑戦

「龍蔵神社の例大祭が行われる8月3日、白山山頂にある白山神社に舞を奉納する」。保存会の小島富司会長(67・飯山)は力強く宣言した。会長に就任して6年目のことし、ふるさと飯山のために新たな目標を掲げた。しかし、真夏の日差しが照り付ける中、山頂まで白龍を担ぐ苦しさは想像に難くない。案の定、会員から得られたのは賛同の声ばかりではなかった。「成功すればメンバーもやってくれたらと思うはず。今までにない見せ物を作り出し、地域のみんなを驚かせたい」。小島会長は揺るぎない意志を固めていた。5

挑戦は、舞の奉納だけではない。5代目となる新白龍の制作にも取り組むことが決まった。頭部と尾腹を1から作り直し、うろこ胴体は4代目ものを補修する。神々しい頭で舞うと同時に、登頂が少しも楽になるよう軽量化するのが目的だ。約50キある4代目白龍から10キ減らすことを目標に据え、5月18日のイベント出演を最後に4代目白龍の解体が始まった。

この日の夕刻、龍蔵神社の例大祭で新白龍を地域の人々に初披露した。見物客からは、惜しみなない拍手とともに「今回の龍は貴族があるね」「これからは飯山を盛り上げて」といった声を送られた。長い一日を終えた漆谷さんは「作り上げた龍を喜んでもらえて良かった。もっと舞の練習を積み、地域に貢献できたらうれしい」とほほ笑んだ。プロジェクトを成功に導いた小島会長は「白山での舞を恒例行事にし、地域の新たな魅力の一つにしたい」と意気込む。さらに会員数の充実、連続技の考案、物語性のある舞の導入、多様な楽器演奏など、一層の情熱を白龍に注ぐ決意だ。「飯山には祭り、自然、歴史、伝承など掛け替えない宝がある。白龍の舞を通じて、多くの人にその素晴らしさに気付いてもらいたい」と語る小島会長。「そして大好きな飯山の里を次世代にしっかりと受け継ぐ」。担ぎ手たちの思いを宿す白龍。ここ飯山の地で勇壮に舞い続ける。



飯山の七不思議

古くから飯山に伝わる七つの伝承。小鮎川に架かる庫裡橋のたもとには、小学生らが描いた白龍伝説をはじめとする七不思議を紹介する壁画がある。

その昔、日照り続きに困り果てた農民たちが、太鼓を打ち鳴らして白山に登り、山頂の白山池の水をかき出した。水飲み場を失った白龍は水を求めて空を舞い、三日三晩の雨を降らせて豊年満作をもたらしたという。

飯山の魅力を広めてほしい

白龍は平成13年4月の「あつぎ飯山桜まつり」でデビューしました。初めて見る龍に、見物客の皆さんがびびりしていたことをよく覚えています。当初は飯山白龍太鼓の演奏の盛り上げ役として、「飯山白龍後援会」という名称で活動していました。初代の白龍は事業者に制作してもらいましたが、体長12キで重さはおよそ60キにも及びました。その後、自らの手による白龍作りを計画し、地域のさまざまな人たちの協力を得て制作しました。2代目の白龍は軽量化に成功し16年4月に完成。翌年2月には、市制50周年を記念した体長20キの3代目白龍を作り上げ、さらに「後援会」から現在の名称に変えました。

現在は保存会を退いていますが、今回の白山神社での奉納の舞は、とても楽しみです。白山に白龍を担いで登るだけでも大変なことですが、実現できれば、新しい白龍の勇壮な姿はもちろん、飯山の魅力ある姿も広く伝えられると思います。



初代会長の西海幹男さん(65・飯山)

里の宝を未来に残す

奉納の舞が始まった。鳥居から境内に滑り込んだ白龍は、頭から尾までを滑らかにうねらせた。さらに境内を旋回。徐々に輪を狭め、最後は「とくろ巻き」で締めくくった。小島会長は「飯山がにぎやかになるようお願いを込めて舞った。達成感で胸がいっぱい」と湧き上がる喜びをかみしめた。



小鮎川の壁画

白龍伝説

白山池

子育て トピック

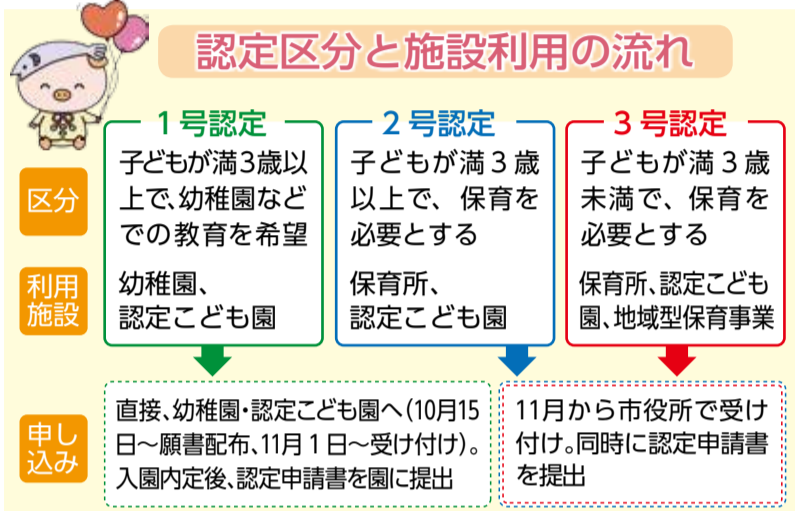
子どもの健やかな成長を支える

子ども・子育て支援新制度

子育てしやすい働きやすい社会を目指して、子育て家庭を支える新たな制度がスタートします。新制度では、家庭ごとに保育の必要性を認定。同時に保育の受け皿を増やすことで、保育所を利用できる人が増えるよう子育て家庭を支援していきます。



子育て支援センター「もみじの手」には、子育てに励む保護者の笑顔と喜びがあふれる



平成24年8月に成立した「子ども・子育て支援法」に基づき、支援の質と量を充実させる「子ども・子育て支援新制度」が導入されます。待機児童などの課題解決に向けた全国的な取り組みとして、27年4月から始まりま

保育の必要性を認定

新制度では、保育所や幼稚園、認定こども園などの利用を希望する家庭ご

とに、市が保育の必要性を認定します。幅広く保育の必要性を認めることで、求職活動中や就学中の保護者なども保育所などに子どもを預けられるようになります。保護者からの申請を受けて、市は子どもの年齢や保護者の就労状況、家庭環境などから保育の必要性を三つに区分(上図参照)。希望する施設との調整をしていきます。新たに入園・入所を希望する方は、それぞれの申し込み先に認定申請書を提出してください。既に子どもが保育所や幼稚園などに在籍している場合は、各施設を通じて市から手続きを案内します。幼稚園の中には新制度に移行しない園もあります。願書の配布時期や施設利用の申し込み方法は移行する園と同じですが、認定の申請は不要です。新制度に移行する施設の保育料は、保護者の所得に応じて算出します。これまでの負担水準やサービスに掛かる費用などを考慮し、市が決定します。

保育環境を充実

新制度ではより保育の必要性が幅広く認められるようになるため、保育環境の充実が必要になります。市では、保育所と幼稚園の良さを併せ持ち、保護者の就労の有無に関わらず利用できる認定こども園の普及や、少人数の子

元気 ひとまち



市制60周年記念事業実行委員の皆さんと

市長 小林 常良

「3、2、1、点火」。河川敷に集まった大勢の皆さんの掛け声に合わせて、色とりどりのスターマインが真夏の夜空に大輪の花を咲かせました。8月2・3日、市制60周年カウントダウン事業として「あつぎ鮎まつり」

を開催しました。猛暑の中、会場でははつらつとしたダンスや力強いみこしのショーなどが繰り広げられ、市民の皆さんの元気が弾けていました。私もパレードや民謡おどりに参加し、汗だくになって楽しませていただきました。メインの花火には、市内企業など25団体から計千五百万円を超える協賛を頂きました。それぞれの団体の個性ある花火が打ち上がり、会場に大きな感動を届けてくれました。「ことしの花火は今までで一番」。私に寄せられたこの声は、多くの皆さんの声を象徴したものだと思います。花火の翌日には早朝清掃を実施。千六百人の皆さんがおもてなしの精神で、河川敷などをきれいにしてくれました。来場者や参加者、協賛者、ボランティアの皆さんなど、みんなでつくり上げた鮎まつり。市民のパワーと絆を再確認できた素晴らしい二日間でした。

全ての子育て家庭のために

市では5月から、アミューあつぎ内の託児室に幼稚園送迎ステーションを設けています。幼稚園にバスで送迎する独自の取り組みで、教育・保育の選択肢を増やしています。全ての子どもが健やかに育つためには、社会全体で子育てを支えていくことが大切です。子どもを生み、育てることに喜びを感じられる社会を実現していきます。

☎こども育成課 ☎25-2262

市議会正副議長が決定

8月8日の市議会第1回臨時会で、議長に石井芳隆氏(つばさ)、副議長に難波達哉氏(あつぎみらい)が選出されました。



議長 石井芳隆氏



副議長 難波達哉氏

石井氏は、副議長をはじめ、議会運営委員会委員長、総務企画常任委員会委員長などを歴任。5期目。65歳。金田在住。難波氏は、総務企画常任委員会委員長をはじめ、市民福祉常任委員会委員長などを歴任。2期目。41歳。下荻野在住。☎議会総務課 ☎25-2700



森の里地区で開かれた隊員募集説明会

トピック

市民の手から始まる「命を守るリレー」 救命の鍵 応急手当

救急

事故や急病で倒れた人の命を救うためには、いち早く応急手当を始めることが大切です。森の里地区ではことし、地域住民が救命現場で初期対応に当たるファーストレスポンドー体制の導入に向けた準備を進めています。

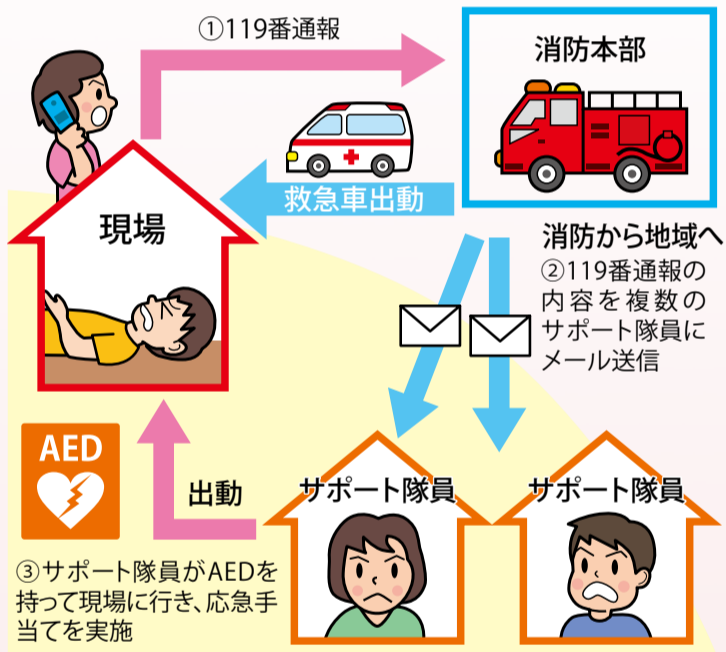
地域の命は地域で守る

心肺停止に陥った人の生存率は、刻々と低下していきます。出動要請を受けて救急車が現場に到着するまでの時間は、市内平均で約8分。人命を救うためには、できるだけ早く処置を開始することが重要です。

現場に居合わせた人が救急車の到着前に応急手当を施すことで、救命率を高めることができます。救命現場における初期対応者を「ファーストレスポンドー」と言います。心肺停止などで119番通報が入ると、消防本部が現場近くの住民と連携。救急車が到着するまでの間に住民が救命処置をします。このファーストレスポンドー体制は、救命率を向上させる取り組みとして注目されています。

森の里地区では万が一の事態に対応できるように、地域住民がファーストレスポンドーとなる「市民救命サポート隊」（左欄参照）の導入を決定しました。11月1日の発足を目指し、隊員の募集や養成研修などの準備を進めて

市民救命サポート隊の流れ



- ①事前に養成訓練を受けた人を「市民救命サポート隊員」として登録
- ②地区内で心肺停止が発生した場合、消防本部からサポート隊員に出動メールを発信
- ③サポート隊員は、各個人の状況によって現場への出動を判断
- ④出動したサポート隊員は、最寄りのAEDなどを救急現場に持参し、応急手当を実施
- ⑤救急車が到着したら、応急手当の内容を救急隊員に伝え、引き継ぐ。必要に応じて救命活動を支援

勇気を持って救命処置を

住民が慣れない救命活動に携わることは課題もあります。神保会長は「実際に倒れた人を目の前にした時には、動揺することもあると思う。不安も大きいと思うが、勇気を持って救命活動に取り組んでほしい」と住民の協力を呼び掛けます。

救命の鍵を握るのは、周囲の人の勇気ある行動です。市では、より多くの市民の皆さんに応急手当の知識や技術を身に付けてもらうため、心肺蘇生法や自動体外式除細動器（AED）の使用法などを学ぶ講習会を開催しています（右表参照）。

応急手当をした人の手から救命隊、病院へとバトンをつなぐ「命を守るリレー」が、救命率を高めます。9月9日は救急の日です。一人一人が応急手当の大切さを認識して協力し合い、尊い命を救いましょう。

救急救命課 ☎223-9365

応急手当講習会日程

◆普通救命講習会 ☎①130877 ②130878 ③130883
《内容》心肺蘇生法、AEDの取り扱い方法、大出血時の止血法などを学ぶ

日程	場所	受付期間
①11月18日	消防本部(寿町3-4-10)	10月15日~27日
②12月13日	陸合分署(三田1475-1)	11月17日~27日
③3月14日		2月16日~25日

◆普通救命講習会Ⅲ ☎①130876 ②130880
《内容》乳児や新生児に対する心肺蘇生法、AEDの取り扱い方法、大出血時の止血法などを学ぶ

日程	場所	受付期間
①10月18日	消防本部	10月1日~9日
②2月6日		1月5日~15日

◆上級救命講習会 ☎130879
《内容》心肺蘇生法、AEDの取り扱い方法、大出血時の止血法、傷病者の管理法などを学ぶ

日程	場所	受付期間
1月17日	陸合分署	12月15日~24日

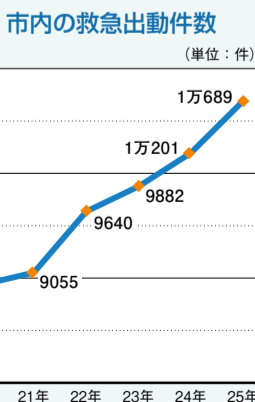


いずれも対象は、市内在住在勤在学中で中学生以上の方30人。無料。☎各受付期間に救急救命課☎223-9365へ。マイタウンクラブからも申し込みできます。

出動件数急増！ 救急車の適正利用を

救急要請の中には、「軽いケガ」や「どこの病院に行けばよいかわからない」など、緊急性のないものが増えています。本当に救急車が必要な方のために適正な利用をお願いします。判断に迷う場合は「あつぎ健康相談ダイヤル24」をご利用ください。

あつぎ健康相談ダイヤル24 携帯・PHSもOK
医療機関情報などにも24時間無料でお答えします。
フリーダイヤル さわか1番 よいところ
☎0120-31-4156



救急救命課 ☎223-9365



笑顔でトウモロコシを収穫する小池さん一家

『農』に触れる

厚木の農業には 笑顔と 触れ合いが あふれている



食育につながっている

小池 ちかさん (35・水引)

野菜を育てることで、子どもたちに新しい発見をさせたいと思いました。子どもたちは野菜の成長に、とても興味を示しています。自分たちで一生懸命育てているので、苦手だったものも食べられるようになりました。農業体験は、食育にもつながっています。

今回、採れたての生のトウモロコシを食べてみたら、本当においしくて驚きました。秋には枝豆の収穫が待っています。家族で楽しみにしながら育てています。

農業体験

数種類の野菜の植え付けから収穫までを体験できる。毎年4月に参加者を募集し、5～10月頃に月1回程度で実施する。ことしは25組72人が参加。

交流できるのも良い

仕事が落ち着いたので、農業に挑戦しました。体験型農園「飯山楽菜園」では、農家の方が一から丁寧に野菜づくりを教えてくださいました。気温や天候に左右されるなど農家の方の大変さがよく分かりますが、収穫が楽しいので、ストレスなく続けられます。楽菜園は、他の利用者とも触れ合いながらできるのが良いですね。

よした としあき 賀田 年明さん (63・上依町)



楽菜園で農業を楽しむ賀田さん夫妻

体験型農園

農家がほぼ毎週、講習会や指導を行う飯山楽菜園がことし4月にオープンした。59区画あり、初心者でも年間を通して安心して収穫ができる。

農業があるからこそ 形成できる社会がある

東京農業大学 農学部バイオセラピー学科 助教 宮田 正信さん (65)



都市農業の良いところは、市民と農業の関わりが深いことです。農業を主な産業にしている農村地域では、一つの作物を大規模に展開し市場出荷するため、農家と消費者との関わりが少ないのが現状です。それに比べ小規模で多様な農業を展開し、直売なども盛んな都市部では、市民や子どもが農業に触れられる機会がたくさんあります。

農家が対面販売する市民朝市などは、市民と農業をつなぐ重要な接点です。農家の方と会話することで新しいコミュニケーションが生まれ、お互いの理解も深まります。農家は消費者と直接関わることによって喜びを感じます。それが農家の生産意欲を高め、よりおいしく、安心安全な農作物の提供にもつながります。夢未市などの直売所で、地場産の農作物に触れることも大切です。

市民の皆さんは、農業が身近にある環境を生かし、楽しみながらもっと農業に触れてほしい。そして、農業があるからこそ形成できる心豊かな社会、地域コミュニティを築いてほしいと思います。

その昔、厚木市は豊かな水田が広がる農村地帯だった。東名高速道路の開通などをきっかけに、工場の誘致や住宅の建築などが進み、まちは発展を遂げてきた。農業も、住民との触れ合いを大切にしながら都市型の農業（都市農業）へと移り変わり、今も市の魅力の一つとして在り続けている。

都市農業の魅力は、生産者と消費者の距離が近いことにある。市内では、米をはじめ野菜、果樹、花など、多様な品目が生産されている。養豚、養鶏、酪農を営む農家もあり、直売所には、新鮮な農産物が並ぶ。

市では、体験事業の実施や市民農園の設置、朝市、夕焼け市の開催などを通して、市民が農業に触れられる機会を提供。同時に農業を通じた市民交流を促している。市内の小中学校でも、農業体験が授業の一環として取り入れられるなど、市民と農業の関わりは深い。

厚木市には、すぐに触れられる身近な場所に農業がある。農業に触れることから生まれる人と人とのつながりが、まちにたくさんのお笑顔を生んでいる。

関農業政策課 ☎25-2800

「おいしい」の聲が 農家の一番の喜び

野菜農家 中村 允さん (30・恩名)



農業を始めて8年目になります。住宅地の中に畑があるので、住民の方と会話し、交流を持つことが大切だと実感しています。最近では、畑の近くを散歩している方から「何を作っているんですか？」などと声を掛けられる機会も増え、うれしく思っています。

都市部の農家では季節の野菜や、日頃家庭で使われる野菜を幅広くそろえることが必要だと思います。普段は個人宅にも届けていますが、出来の良しあしはお客さんの感想に直接表れるので、「おいしかったよ」と言われるととても幸せな気持ちになります。最近では、地場産の野菜の良さや大切さなどの理解が広がり始めていますが、それでもまだ一部です。これからも多くの方に喜んでもらえるよう努力していきたいです。



中村さんの畑。周辺にはマンションやビルが立ち並ぶ

地産地消

生産農家が対面販売

直売所には、新鮮で安全な地場産の農産物や加工品、生花などが所狭しと並ぶ。農家と直接会話できるのが魅力で、旬の野菜のおいしい食べ方などのアドバイスも聞けると評判。



厚木市民朝市

昭和49年の開始以来、市内外から毎週多くの人が訪れている。月に1回程度、安売りや季節に合わせた「特別市」も開催。

《日時》毎週日曜 5時30分～(90分程度)
※10月～3月は6時～(60分程度)

《場所》文化会館(恩名1-9-20)

夕焼け市

平成11年に始まり、朝市と同様に人気の直売。開催期間は4月中旬～10月。季節に合わせた「特別フェア」も開催している。

《日時》毎週水曜 17時～(90分程度)
※9・10月は16時～(90分程度)

《場所》荻野運動公園(中荻野1500)

JAあつぎファーマーズ マーケット「夢未市」

JAあつぎが営業する大型の直売所。朝採れの野菜はもちろん、市内産豚肉や加工品、季節の果物、花などが並ぶ。市内産米の量り売りなども実施。地場産品を求めている多くの買い物客でにぎわっている。

《営業時間》9時30分～18時

《定休日》毎月第3水曜(3・9月は第2水曜)、1月1日～5日

《所在地》本店(温水255)、相川店(酒井1422-1)

関夢未市本店 ☎290-0141





厚木で農業始めました

「後継者がいなく」「高齢で続けられない」。全国的な課題である農業の担い手不足は、厚木も例外ではない。こうした課題の解決に向け、都市農業委員会、JAでは、都市農業支援センター（下参照）を設立。新たに農業を志す新規就農者や企業の参入をサポートしている。市内の農業に新しい風を吹き込む、若き就農者の日常に密着した。



ジリジリとした日差しが照り付ける小さな農園では、ミニトマトやナスなどの夏野菜が収穫の時を迎えていた。宇都龍太さん（21・相模原市）は、真っ赤に熟した実、一粒一粒をほさみで丁寧に摘み取っていく。「収穫はそんなに好きじゃないんです。試行錯誤しながら、作物を育てている過程が一番楽しいですね」。宇都さんは、はにかむような笑顔を浮かべ頬を伝う汗を拭った。

「後継者がいなく」「高齢で続けられない」。全国的な課題である農業の担い手不足は、厚木も例外ではない。こうした課題の解決に向け、都市農業委員会、JAでは、都市農業支援センター（下参照）を設立。新たに農業を志す新規就農者や企業の参入をサポートしている。市内の農業に新しい風を吹き込む、若き就農者の日常に密着した。

「最近母親も食べた感想を言ってくれます」。いつも僕には厳しいんです。とほほ笑む宇都さん。農業の道に進むことを反対していた家族も、今では袋詰めを手伝ったり、売り場を見つたりと支えてくれている。

自分の好きな道へ

幼いころから生き物に興味があった宇都さん。農業をなりたいとして考えたのは、高校生の時に経験した農業実習がきっかけだった。津久井の農家に通い野菜を育てる日々は、楽しかった。「自分の進む道はこれだと思った」。しかし、宇都さんが農業の道へ進むことに、家族は大反対だった。宇都さんの家族は、相模原市で精密機械の部品を作る会社を営んでいる。長男の龍太さんに会社を継いでもらいたいと考えてるのは、当然だった。それに加え、宇都さんの祖父たちは、農業を続けられずに鹿児島県から引越してきたと

厚木の農家とのつながり

収穫を間近に控えたブドウ園では、宇都さんが伸び過ぎたつるを切り落とす作業に汗を流していた。宇都さんは、2年前から依知にある鈴木果樹園で農作業を手伝っている。「もう少し地面に光が当たるように、剪定しておこうか」。宇都さんに作業の手ほどきをするのは鈴木祐紀さん（44・関口）。アカデミーの実習で果樹園を訪れた宇都さんに声を掛け、以来、忙しい時期の作業を手伝ってもらっている。「これまでたくさん研修生を受け入れてきたけど、彼は本当に農業のセ

お客さんの声を大切に

宇都さんはことし、これまでの農業経験が認められ、下古沢に自分の名義で農地を借りることができた。農地は、都市農業支援センターに紹介してもらった。センターで顧問を務めている山口敏江さん（61）は、前職でアカデミーに勤めていた時から宇都さんを見てきた。「宇都くんが就農できてうれい。でも、まだここはスタートライン。新規就農者が農業を続けていくためには、地元農家などのサポートが絶対に必要」と見守る。

市・農業委員会・JAが連携

都市農業支援センター

都市農業支援センターは、市内の農業振興を目的にことし4月に発足しました。市、農業委員会、JAの職員5人がそれぞれの専門性を生かして耕作放棄地（長期間、作付けがない農地）の増加や農業従事者不足などの課題解決に取り組んでいます。

- ① 農地の有効利用
- ② 農業をしやすい環境の整備
- ③ 地産地消の拡大

【主な業務内容】

- ・農地の貸し手、借り手のマッチング
- ・耕作放棄地の復元や、作付け再開の仕組みづくり
- ・農地相談
- ・新規就農者、法人参入（右欄参照）の支援
- ・農作業の受託



事務所はJAあつぎ本所経済事務所に開設

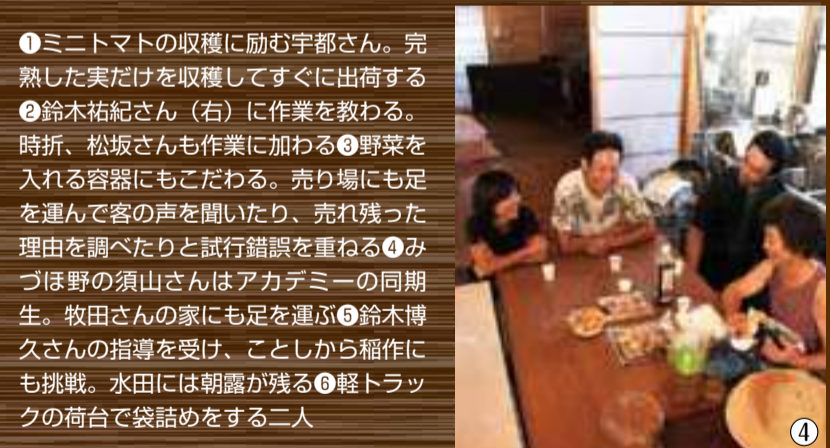
◎都市農業支援センター ☎221-5511

みづほ野ファーマーズ70 法人参入



株式会社みづほ野は、レストランや仕出し料理などを手掛ける企業です。自社生産の新鮮な野菜を提供するために、「みづほ野ファーマーズ70」を設立。8月に愛甲の牧田範男さん（69）・啓子さん（65）の温室を借りて農業に参入しました。中村泰巳さん（60・七沢）と、須山直希さん（21・平塚市）が、トマトやキュウリ、イチゴなどの生産に汗を流しています。牧田さんは、市民朝市や夕焼け市に出店する農家です。体調などの事情から規模の縮小を考えていた中で、県や都市農業支援センターの仲介により企業への貸し出しが決まりました。牧田さんは「熱心に農業をやってくれるので、信頼して任せられる」と喜びます。

企業の農業への参入は、農業者の高齢化などによる担い手不足を補う一手として期待されています。



①ミニトマトの収穫に励む宇都さん。完熟した実だけを収穫してすぐに出荷する
②鈴木祐紀さん（右）に作業を教わる。時折、松坂さんも作業に加わる
③野菜を入れる容器にもこだわる。売り場にも足を運んで客の声を聞いたり、売れ残った理由を調べたりと試行錯誤を重ねる
④みづほ野の須山さんはアカデミーの同期生。牧田さんの家にも足を運ぶ
⑤鈴木博久さんの指導を受け、ことしから稲作にも挑戦。水田には朝露が残る
⑥軽トラックの荷台で袋詰めをする二人

未来を見据えて
宇都さんには、今、傍らで農作業を手

伝ってくれる人がいる。松坂美菜里さん（21・横浜市）。アカデミーの後輩で、一年ほど前から一緒に畑に出ている。週に3日程度、横浜市から車で宇都さんの下へと通う。「自分は収穫が苦手だから、一緒に働いてくれる人がいるのは助かりますよ。お互い頑固だから、いつまで続くか分かりませんが」と

はにかむ宇都さん。将来は厚木市に住み、二人で農業を続けていきたいと考えている。「好きで始めた農業だから、ずっと楽しんで続けたい。食べていくだけのお金は必要ですけど、楽しむ気持ちをお金に換えないようにしたいです」
厚木の大地にまかれた新規就農者という種は、人と人とのつながりに支えられ、すくすくと育っている。

■第2回初心者弓道教室

10月2・6・9・16・20・23・27・30日(全8回)、13時~15時30分。東町スポーツセンター。基礎技術の講習。市内在住在勤在学の方20人(児童・生徒を除く)。3000円。☎141334

■第1回スポーツ医科学セミナー「スポーツ歯科とマウスガード装着によるケガ予防」

9月27日、14時~15時30分。南毛利スポーツセンター。専門の歯科医がスポーツと歯の関係やマウスガード(マウスピース)装着の効果を解説。市内在住在勤在学の高校生以上の方30人。無料。☎141339

いずれも申し込みは、ハガキ、ファクスに教室名、〒住所、氏名(ふりがな)、年齢、電話番号を書き、9月15日(必着)までに〒243-0039温水西1-27-1体育協会 ☎247-7212・☎248-7151へ。抽選。

■緑の講座

10月9・16・23・30日(全4回)、10時~11時30分。ぼうさいの丘公園(温水783-1)。「健康な緑づくり」「アーユルヴェーダとバイオセラピー」「園芸の療法効果(心と体の健康を取り戻す)」「野菜のおいしさ」がテーマの講座。市内在住の方80人。無料。☎ハガキに講座名、〒住所、氏名(ふりがな)、電話番号を書き、9月16日(必着)までに〒243-0036長谷626-1環境みどり公社 ☎225-2774へ。抽選。☎141183

■アロマで手作りコスメ教室

10月18日、13時~15時。あつぎ市民交流プラザ。アロマを使った化粧品作り。市内在住在勤の方10人。2250円(材料費など)。☎電話またはファクスに講座名、〒住所、氏名、年齢、電話番号を書き、9月12日までに勤労者福祉サービスセンター ☎206-4151・☎206-4611へ。抽選。

■親族後見人のための講習会と相談会

10月11日、13時30分~17時。総合福祉センター。成年後見人の基本的な職務の講習会と弁護士などによる相談会。親族後見人(予定

の方を含む)の方、親族後見人を支援している方や関心のある方など80人(相談会は12人。要予約)。無料。☎10月3日までに社会福祉協議会 ☎225-2947へ。先着順。

■わくわくおでかけひろば

9月18日、10時30分~11時30分。岡田児童館(岡田5-9-1)。母親クラブ会員と一緒にタペストリーの人形劇や手遊びなどを楽しむ。未就学児とその保護者30人。無料。☎当日直接会場へ。先着順。☎青少年課 ☎225-2580。

■手づくり製品展示・即売会

9月13日、10時~17時。コープかながわ厚木戸室店(戸室5-6-1)。厚木市・愛川町・清川村の地域活動支援センターや就労継続支援事業所、知的障害者施設などの紹介と利用者が作った製品の展示・即売。☎七沢学園・平山 ☎249-2307。

■笑顔で創る、この町の未来像

「この町の未来像」をテーマにしたイラストを募集します。《対象》厚木市・愛川町・清川村在住の小学生。優秀作品はモザイクアートにして各市町村に寄贈します。参加賞あり。☎専用ホームページ(http://45th.atsugi-jc.com/)で9月30日まで受け付け。☎厚木青年会議所 ☎224-8716。

■たから市〜Heartful Heart〜みんなあつまーる!

9月13日、①10時~17時②11時~21時。①文化会館②厚木中央公園。①中村獅童さん、真矢みきさんの講演、ロボットコンテストなど②Berry's工房のライブ、白龍の舞い・白龍太鼓、ダンスなど。無料。☎当日直接会場へ(①は定員1800人。先着順)。☎厚木青年会議所 ☎224-8716。

■行政改革調査委員会委員を募集

市の行政改革に関する重要事項を審議、検討する委員を募集します。《対象》①市内在住在勤在学で応募日現在18歳以上②平日の会議(年2回程度)に出席できる③他の

あつぎ 元気Wave 9月の広報番組 ガイド

ケーブルテレビ あゆチャンネル(11ch) 放送時間(15分) 9月1日~15日 ◆雨乞いの舞 天高く 白山神社で奉納の舞に挑戦した「飯山白龍の舞い保存会」を紹介

①12時~②19時30分~③22時45分~ ※内容や時間を変更する場合があります。

番組はホームページ動画配信 あつぎ元気Wave 検索 CATV放送開始後に配信

審議会などの委員でない④市の議員・職員でない⑤の全てを満たす方2人《任期》11月1日~(2年間)《報酬》1日7800円(交通費含む)。☎行政経営課にある申込書(市ホームページからダウンロード可)に必要事項と応募動機(400字程度)を書き、直接または郵送、ファクス、Eメールで9月19日(消印有効)までに〒243-8511行政経営課 ☎225-2280・☎223-4058・e-mail = 0600@city.atsugi.kanagawa.jpへ。書類選考、面接あり。

■体育協会臨時職員を募集

《内容》スポーツ施設の管理・運営など《対象》18~60歳の健康な方若干名《勤務場所》及川球場(及川1-17-1)、猿ヶ島スポーツセンター(猿ヶ島195-129)《期間》10月1日~平成27年3月31日(更新可)《時間》月20日程度で①8時30分~15時②15時~21時30分③17時~21時30分一の交代勤務《給与》時給905円~《選考》面接(9月18日)。☎市販の履歴書に写真を貼り、9月15日までに直接、南毛利スポーツセンター ☎247-7212へ。

■国民健康保険被保険者証の更新

10月の更新に伴い、9月7日から簡易書留で被保険者証を郵送します。保管期間満了で未受領の方は、9月29日以降に運転免許証などを持ち国保年金課で受け取るか、お問い合わせください。既に市外に転出または職場の健康保険に加入している場合などは、脱退の届け出をしてください。☎国保年金課 ☎225-2122。

■9月10日は「屋外広告の日」

屋外に設置する広告物は、掲出位置や形状などが決まっていま

す。設置には条例に基づく許可が必要です。ルールを守ってきれいなまちをつくりましょう。☎都市計画課 ☎225-2400。

みんなの声で つくる まち

《パブリックコメント》

●(仮称)地域包括支援センター人員等基準条例の制定

《閲覧期間》9月1日~30日。☎〒243-8511高齢福祉課 ☎225-2220・☎221-1640・e-mail = 2000@city.atsugi.kanagawa.jp

●市立病院の診療費等に関する条例の一部改正

《閲覧期間》9月1日~30日。☎〒243-8588経営管理課 ☎221-1570・☎222-7836・e-mail = 2500@city.atsugi.kanagawa.jp

●(仮称)指定介護予防支援事業の人員及び運営等に関する基準を定める条例骨子

《閲覧期間》9月1日~30日。☎〒243-8511介護保険課 ☎225-2240・☎224-4599・e-mail = 2230@city.atsugi.kanagawa.jp

●老人福祉センター条例及び同条例施行規則の一部改正

《閲覧期間》9月1日~30日。☎〒243-8511高齢福祉課 ☎225-2224・☎221-1640・e-mail = 2000@city.atsugi.kanagawa.jp

閲覧場所は、各課窓口、市政情報コーナー、公民館、本厚木駅・愛甲石田駅連絡所、総合福祉センター、中央図書館、あつぎ市民交流プラザ窓口、市ホームページなど。応募資格は市内在住在勤在学の方または市内で活動する個人・法人・団体。応募は閲覧場所にある応募用紙を備え付けの「わたしの提案」箱に投函するか、直接または郵送、ファクス、Eメールで問い合わせ先へ。

にぎやか! あつぎ国際大道芸2014 キッズピエロ 募集

あつぎ国際大道芸で、ピエロの衣装をしてチラシの配布などをするスタッフを募集します。一緒にフェスティバルを盛り上げましょう。

《日時》11月8・9日 10時~14時
《対象》市内在住の小学生各日50人(両日参加できる方を優先)。
☎電話またはファクス、Eメールに〒住所、氏名(ふりがな)、保護者名、生年月日、学校名、電話番号、希望日を書き、9月26日までに商業にぎわい課 ☎225-2840・☎223-7875・e-mail = 3800@city.atsugi.kanagawa.jpへ。抽選。

インターネットモニターからの意見を紹介

ホットメール Hot E Mail

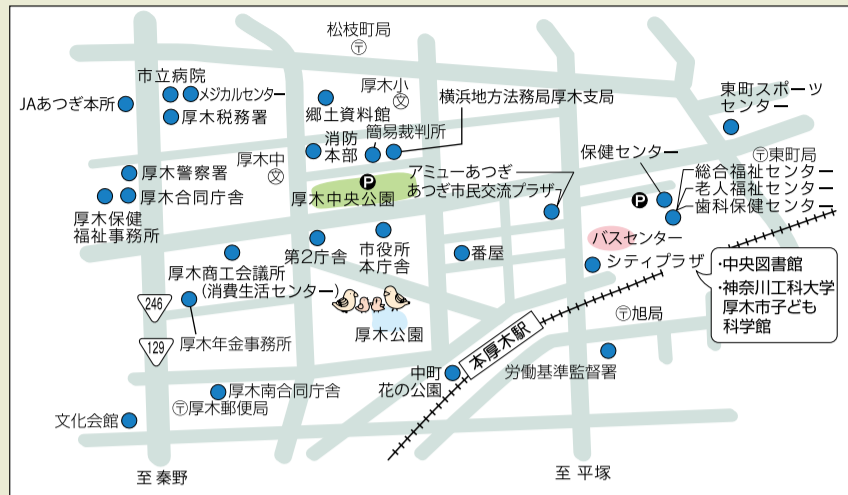
8月1日号「広報あつぎ」を読んで ◆大道芸の写真のインパクトがすごかった/20代女性・温水 ◆駅前的大道芸は非常ににぎやかで街の活性化につながると思う/50代男性・上落合 ◆未納の実態などのデータも提示してほしい/40代男性・温水 ◆食中毒の予防ポイントを確認できた/40代女性・みはる野 ◆厚木はジャズにゆかりのある土地だとあらためて知った/30代女性・岡田 ◆魚つかみどり大会の子どもたちが喜ぶ写真が良く、楽しい雰囲気伝わって来た/60代男性・下荻野

厚木市 インターネットモニター結果 検索

編集後記

飯山白龍が新たな挑戦を始めると聞き、5月から密着取材をしてきました。驚いたのは、小島会長のみなぎるバイタリティーです。昨年には郷土の歴史や暮らし、自然を学ぶ現代版の寺子屋「無尽蔵」を開塾。東京工芸大学で非常勤講師として教壇に立つほか、地域では飯山七不思議の紙芝居の見せ語り、ミニコミ誌への寄稿、木彫、絵画、子どもを集めたラジオ体操など、休む間もなく多方面にわたる活動を展開しています。そのエネルギーのほぼ全ては、ふるさと飯山のために注がれていることを取材を通じて知りました。(清水)

タウンガイド



9月							10月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6	5	6	7	8	9	10	11
7	8	9	10	11	12	13	12	13	14	15	16	17	18
14	15	16	17	18	19	20	19	20	21	22	23	24	25
21	22	23	24	25	26	27	26	27	28	29	30	31	
28	29	30											

マイタウンクラブ

印の番号でウェブ上からも、詳しい情報をご覧ください。
「〇〇」と記されたものは、ウェブ上から申し込みができます。
www.mytownclub.com
[携帯電話は末尾に/cpを]



9月の青春劇場スケジュール

6日 = 唄！青春劇場カラオケ大会 (ゲスト・井上まりこ)。15時～16時。定員100人。入場料500円。
27日 = あつぎ青春劇場落語会 (出演・柳家花ん謝)。11時～12時30分。定員100人。入場料500円。
いずれも会場はアミューあつぎ9階。☎当日直接会場へ。📞商業にぎわい課☎225-2840。

収蔵資料展「あつぎの自然に親しもう！バツと秋の自然観察」

9月20日～10月19日、9時～17時。郷土資料館。秋の自然の写真や標本展示など。無料。期間中は無休です。
📞郷土資料館☎225-2515。📍141328

ひよこコミュニティ保育「子育て講座」

9月25日、10時～。荻野公民館(中荻野594-1)。「子育て中のお母さんに小児科医として伝えたいことPart2」がテーマの講演。定員50人。無料。託児あり(要予約)。☎当日直接会場へ。先着順。📞ひよこ

コミュニティ保育園舎☎242-0000。

振り込め詐欺・交通事故撲滅市民総決起大会

9月22日、13時30分～15時。文化会館。「神奈川県下の振り込め詐欺の情勢と取組」がテーマの講演など。定員350人。無料。☎当日直接会場へ。📞暮らし交通安全課☎225-2148。

あつぎ協働大学特別講座「体験！動物や植物とからだで交流しよう！」

10月18日、9時30分～13時。東京農業大学バイオセラピーセンター(船子1737)。ウマ、イヌ、ウサギの飼育、ガーデニング体験。市内在住の小学生17人(ウマ係5人・イヌ係4人・ウサギ係2人・ガーデニング係6人)。307円(保険代)。☎ハガキ、ファクス、Eメールに保護者の〒住所・氏名・電話番号、児童の氏名(ふりがな)・学年・性別・希望する係を書き、9月19日(必着)までに〒243-8511文化生涯学習課☎225-2512・☎225-3130・e-mail = 0350@city.atsugi.kanagawa.jpへ。抽選。



多くの人の心のよりどころになりたい

僧侶 浅摩 泰真さん(27)

実家の寺で、住職である父と一緒に法事や葬式の読経などを行っています。地元との関わりが大きいので、地域の方に声を掛けていただくと、とてもうれしく感じます。

2年8カ月の修行を経て、心を整える大切さを学びました。修行中、一般の方に坐禅の組み方を教えていたので、定期的に坐禅会を開きたいと考えました。寺になじみのない方でも参加しやすいように、喫茶店を会場にしました。8月に開いた第一回目では、20歳～70歳代の方に参加いただき「自分と向き合う時間の大切さを感じた」などの言葉を頂きました。

全ての出会いや出来事を良い縁と考えられれば、さまざまな事を前向きに受け入れられます。私も多くの人の心のよりどころとなれるように、一つ一つの縁を大切に精進していきたく思います。

このコーナーでは、熱い気持ちを持って働く厚木の若者を紹介します

物忘れ予防・脳いきいき教室「お出かけプログラム」

10月1・8・15・22・29日、11月5・12・19日(全8回)。14時～16時。あつぎ市民交流プラザ。ウォーキングを取り入れた認知症予防。市内在住で65歳以上の方25人(要支援・介護認定者を除く)。無料。
☎直接、電話またはハガキ、ファクスに教室名、〒住所、氏名、生年月日、電話番号を書き、9月16日(必着)までに〒243-8511高齢福祉課☎225-2388・☎221-1640へ。抽選。📍141097

あつぎ観光ボランティアガイド協会のガイド養成講座

10月～平成27年3月の毎月第3木曜(全6回)、9時30分～12時(予定)。郷土資料館ほか。ハイキングや史跡探訪のガイド、文化財の説明員などを養成する講座。市内在住で20歳以上の方20人。無料。☎電話または往復ハガキ、Eメールに〒住所、氏名(ふりがな)、年齢、性別、電話番号、Eメールアドレスを書き、9月20日(必着)までに〒243-0121七沢751-1東丹沢七沢観光案内所☎248-1102・e-mail = atsugi-kankou@ai.ayu.ne.jpへ。抽選。📍141393

平成26年度中期労働講座「最新！労働法の基礎をマスターしよう」

10月3・7・10・14・17・21・24・28日(全8回)、18時15分～20時15分。あつぎ市民交流プラザ。労働法の基礎を学ぶ。定員60人。3800円。☎9月26日までにかながわ労働センター県央支所☎296-7311・☎222-5375へ。先着順。

「忙しいあなた！」にも出来る料理教室

10月18日、10時～13時。あつぎ市民交流プラザ。秋の食材を使って、簡単にヘルシーな料理を作る。市内在住在勤在学の方20人。500円(材料費)。託児あり(1歳～小学3年生。要予約)。☎直接、電話またはハガキに〒住所、氏名、電話番号、託児の有無を書き、10月2日(必着)までに〒243-8511人権男女参画課

☎225-2454へ。抽選。📍141187

プレパパママ教室

9月20日、10時～11時30分。あつぎ市民交流プラザ。「妊娠中からの心の健康について」がテーマの講演や妊婦体験など。市内在住の初めて親になる方25組(一人でも可)。無料。☎9月15日までに健康づくり課☎225-2597へ。先着順。📍141318

人権啓発講演会

9月18日、13時30分～16時。文化会館。落語家によるお笑い人権高座「笑顔でくらす、願いにいきる～自分の人生、自分が主役～」がテーマの講演(手話通訳あり)。定員1400人。無料。☎当日直接会場へ。先着順。📞国連NGO横浜国際人権センター☎045-261-3855。📍241001

在宅医療推進講演会「地域でいのちを支える～がんばらない介護～」

10月11日、12時45分～14時30分。神奈川工科大学(下荻野1030)。テレビなどでおなじみの鎌田實さんによる介護がテーマの講演。厚木市・愛川町・清川村在住の方450人。無料。☎電話またはファクスに〒住所、氏名、電話番号を書き、9月17日までに健康医療課☎225-2174・☎223-7066へ。抽選。

体育協会のスポーツ教室

■初級・中級バドミントン教室
10月10・17・21・24・28日(全5回)、19時～21時。南毛利スポーツセンター(温水西1-27-1)。基礎技術の講習。市内在住在勤在学の方30人(児童・生徒を除く)。2000円。📍141329

■初級・中級グラウンド・ゴルフ教室
10月11・18・25日(全3回)、9時30分～11時30分。南毛利スポーツセンター。基礎技術の講習。市内在住在勤在学の小学生以上の方30人。1000円。📍141330

■なぎなた体験教室
10月11・18・25日、11月8・15日(全5回)。10時～12時。東町スポーツセンター。基礎技術の講習。市内在住在勤在学の小学生以上の方20人。無料。📍141331

あなたの笑顔でカウントダウンを盛り上げよう！

市制60周年 カウントダウン参加者募集

平成27年2月1日の厚木市制60周年記念日に向けて、カウントダウンを盛り上げる写真の提供者を募集します。10月24日から日替わりで市ホームページに写真を掲載し、カウントダウンします。

【掲載イメージ】



《対象》市内在住に勤在学の個人または団体80組程度

☎ハガキ、ファクス、Eメールに団体名、代表者の〒住所・氏名・年齢・性別・電話番号、応募動機を書き、9月30日(必着)までに〒243-8511企画政策課☎225-2450・☎225-3732・e-mail = 1100@city.atsugi.kanagawa.jpへ。抽選。※写真の提出方法は後日、応募者に連絡します。

厚木市制60周年 検索

2020年東京オリンピック・パラリンピック開催



トランポリン
本橋 柚希くん(12)

夢は
オリンピック

レスリング
鈴木 大樹くん(12)



コーチと一緒に携帯端末で動きを確認

2020年に、東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。市内には、夢の祭典への出場を目指し、スポーツに打ち込む子どもたちがたくさんいます。熱心に練習を続け、憧れの舞台への第一歩を踏み出した二人の小学生を紹介します。



兄弟4人でレスリングクラブに所属

難しい技ができた ときが楽しい

本橋柚希くん(緑ヶ丘小)はこの夏、北海道札幌市で開催された全日本ジュニアトランポリン選手権大会ダブルミニの部で1位、シンクロナイズド競技で2位を獲得しました。幼稚園からトランポリンを始める選手が多い中、競技開始からわずか3年での快挙達成です。
大会中は自分の競技に集中するあまり、食事の時間すら忘れてしまっていたという本橋くん。「努力した分だけ、難しい技ができるようになるのが楽しい」と笑顔を見せる表情には、充実感があふれています。
「オリンピックに出場して、金メダルを取りたい」とひたむきに練習を重ねる本橋くん。夢は、大きく羽ばたき始めました。

あつぎスポーツアカデミー 高野進の五輪魂

市では、トップアスリートの育成を目指すスポーツアカデミー事業を進めています。事業のスタートを記念し、バルセロナ五輪400m走ファイナリストの高野進さんの講演会を開催します。音楽とリズムに合わせたランニング教室も実施。子どもから大人まで、みんなで楽しみましょう。

日時 10月4日(土) 14時～
会場 文化会館(恩名1-9-20) **定員** 700人

☎電話またはファクス、Eメールに代表者氏名、電話番号、人数を書き、スポーツ政策課☎225-2531・FAX223-0044・e-mail=8850@city.atsugi.kanagawa.jpへ。先着順。
☎スポーツ政策課☎225-2531



《プロフィール》昭和36年5月21日生まれ。東海大卒。陸上男子400m走日本記録保持者。ロサンゼルス、ソウル、バルセロナと3回の五輪に出場。

優勝は仲間たちと コーチのおかげ

激しいタックルから素早く相手を押さえ込む鈴木大樹くん(依知南小)。7月に都内で開催された全日本少年少女レスリング選手権大会小学6年生46kg級で、初優勝を成し遂げました。3月の大会で3位に終わった雪辱を果たす、悲願の優勝です。
「絶対に勝てると思って試合に臨みました。優勝できたのは、仲間たちとコーチのおかげです」と鈴木くんは感謝の気持ちを忘れません。
オリンピック出場と金メダル獲得という目標を胸に秘め、今日もトレーニングに励む鈴木くん。「努力の積み重ねが、結果につながると思います」。そう話す鈴木くんの瞳は、力強く輝いています。

「広報あつぎ」は、自主財源確保のため広告掲載事業を実施しています。広告掲載の申し込みは(株)相鉄エージェンシー☎045-450-1804へ。